

## Ruby のメソッドの返り値

C 言語や Java と違って Ruby では、メソッドの返り値を宣言しない。  
さすがに一つのメソッドの中で条件によってさまざまな型（オブジェクトか）を返り値にすることは少ないが、いまかいていたプログラムでは、あるクラスを継承したいくつかのクラスにおいてそれぞれオーバーライドしているメソッドがさまざまなオブジェクトを返してしまうような設計になっていた。  
もちろん設計時には気を使ってメソッドを利用する側で注意していたのだが、次第にこんがらがったのか、バグの温床に。  
なるべく、こんな設計はしないようにしないと。  
あと、忘れがちなのが暗黙の返り値。  
Ruby なれしてない私は、return で明示的に値を返すことが多いのだが、Ruby では、最後に評価した式の値が返り値になる。  
うっかり nil がかえているのに気づかないのも、後で困ったり。  
きをつけよ～